

平成 27 年 9 月 14 日

第 21 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会シンポジウム報告

平成 27 年 9 月 11 日・12 日に国立京都国際会館にて開催された日本摂食嚥下リハビリテーション学会で、本研究班のシンポジウムが開催された。学会は多職種からなる学会であり参加者も例年多数である。その中でも「地域包括ケアと摂食嚥下障害－高齢社会におけるリハビリテーションと摂食嚥下」と題した本シンポジウムへの関心は高く、600 名着席会場に多数立ち見があったため 700 名以上の参加があったものと思われる。内容は下記であった。

日時：9 月 11 日（金）14:50～16:50

会場：第 3 会場（国立京都国際会館）

司会

戸原玄（東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野）

山脇正永（京都府立医科大学大学院医学系研究科総合医療・医学教育学）

演者

戸原玄（東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野）

「高齢者の摂食嚥下・栄養に関する地域包括的ケアについての研究」について

渡邊裕（国立長寿医療研究センター）

摂食嚥下に関連する問題に対応可能な医療資源に関する調査報告

野原幹司（大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学教室）

有効な連携事例調査結果報告 ～連携に効果的であった取り組みと苦労した点～

安細敏弘（九州歯科大学）

病院ならびに介護老人施設と外部医療機関との連携の実態と課題

白井淳子（東京都福祉保健局医療政策部）

行政が取り組む摂食嚥下機能支援

冒頭に戸原より研究班の説明と作成したサイトの紹介があり、次いで渡邊より医療資源の地域解析から見える課題、野原より慢性期の対応の重要性と有効な連携の取り方のコツ、安細より病院および老健での連携の実態、さらに白井より特に東京都の行政が取り組んでいる摂食嚥下機能支援の報告があった。会場からは誤嚥したらどうするのかと組みを開始できない場合にはどうしたらよいか、現段階の医療資源調査では北陸の登録数が少ないが自分も北陸で働いているので登録を呼びかけたい、行政に動いてもらうときのポイントなどについての意見・質問が多数あげられ 50 分程度のディスカッションも有意義に行われた。最後に山脇より研究班にて、研修会もしくはフォーラムを開催し連携を推進す

るのがよいであろうとの意見があり、極めて活発な議論のもとシンポジウムは終了した。